



空間 NPO 会報

第59号
2017年10月

発行 特定非営利活動法人 女の空間NPO
〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-4-18-401
TEL&FAX 03-3711-5054
発行人 長沖暁子

office@space-for-women.org
http://www.space-for-women.org

定例会

- 11月5日(日)13:30~16:00
- 12月3日(日)13:30~16:00
- 1月7日(日)13:30~16:00

*日時が変更となることもありますので、ご出席の方は直前にお確かめください。

おしゃべり会



- 10月9日(月)13:30~16:00
「成年後見制度から考える
~私たちが欲しい支援 PartIII」
担当：長沖、丸山
- 11月 (休会)
- 12月23日(土)13:30~17:00
「今年1年を振り返り、
来年に望む、望年会」

- 1月21日(日)13:30~16:00
「少し息継ぎ、でも楽ではない
です、シェアハウス」
話し手：奥山たえこさん

女の空間カフェ



- 第2&第4 月曜日 14:00~21:00
- 10月 9日、23日
 - 11月13日、27日
 - 12月11日、25日
 - 1月 8日、22日

総会&懇親会



- 11月26日(日)13:30~
- *すべての会場は、女の空間NPO事務所です。
- *予約は必要ありませんが、初めていらっしゃる方はメールでご連絡願います。
office@space-for-women.org
- *詳細は最終ページ、またはwebサイトをご参照ください。
http://www.space-for-women.org

少し息継ぎ、でも楽ではないです、シェアハウス

奥山 たえこ

会報58号(7月発行)に、部屋を借りにくい女性向けシェアハウス「柏あさひハウス」のご案内「高齢者こそ、何かと安心なシェアハウスを」を掲載していただきました。感謝。今回は、その後の報告です。

実は5月のオープン以降、3か月近く入居者はほぼゼロでした。もちろんすぐ満室になることはないと思っていたものの、まさかゼロとは。住まいに困っている人は必ずいる、しかも少なくない。行政の窓口に行ったり、リツイートしてもらったり、貧困支援関係のMLなどでも広報するものの、う〜ん。「私は、何か、大きな勘違いをしているのではないか……」、頭を抱える日々が続きました。

そこで、シェアハウスポータルサイトへの掲載を検討する(最低でも月2万円〜)一方で、ハウスのダイニングテーブル入手で初めて利用したジモティー(譲ります、下さいなど、インターネットの掲示板)に、ダメ元でシェアハウスの項目で掲載(無料)しました。すると、問い合わせがぼつぼつ入り、なんと入居に至った方々まで現れました。

というわけで今は、若い男性2人(ハウスがカラッポの時、奥山の知人で住まいに困っていた人に入ってもらった。女性の入居希望者に打診したら「却って安心」の由だったので)、若い女性1名、母娘+大小犬2匹。これで、8部屋のうち、やっと半分の4部屋が埋まりました。

けれど順風満帆とはいきません。当ハウスは「入居者を拒まない」がモットーですが、ある人は電話の声が、しかも真夜中にあまりに大きく、他の人の睡眠を妨げるほどになっていました。退去をお願いするも「改善する、ここに住み続けたい」と言いますが、それが無理なことはすでに実証済でした。結局、有形力を行使することなく退去に至ったのは、誠に幸運だったとしか言えません。

先日、通信社の記者から取材を受けました。世の中にシェアハウスは数多あれど、個人で、しかも困窮者対象ってないですよということ。記事はつい先日「旬な人」というコーナーで、地方紙に配信。なんとその日の夕方、私の出身県大分で掲載。家族や幼なじみから「見たで」の連絡。東北の知らない方からも、ツイッター経由でご連絡がありました。

ほかにも苦労はいっぱいありますが、面白いです、シェアハウス。
お問い合わせは、どんなことでも、お気軽にお願いします。

※ 2018年1月のおしゃべり会は、奥山さんをお迎えする予定です。ぜひご参加ください。

おしゃべり会報告

7月23日

女性監督の映画を観て話そう Part III



出生時に取り違えられた二人の息子と家族の話。物語はイスラエルとパレスチナで暮らす2つの家族を描く。二人の息子はその事実を知らされると同時に、自分との、そして家族との葛藤を抱える。家族の一人ひとりにとっても、それぞれに抱える葛藤はあるわけで。。。キーワードは「壁」だろうか。

ぎこちないながらも柔軟に前向きに、状況を迎え入れる「女たち」に比べ、事実を認めることにさえ自らの内に大きな壁を抱える「男たち」という構図が面白かった。

全編を通して、イスラエルとパレスチナに立ち足はかかる「壁」が、その存在感を見せつけるが、映画では未来への希望を感じさせる最後のシーンに救われた。（みっち）

病院での出産時に赤ちゃんを取り違えられたことを知らずにいた家族。それを知ることになった苦悩と横たわる民族問題と国と国との対立。そして家族の交流へ。母たちの子どもたちへの優しく情に溢れた姿。父たちの屈折しながらも子どもたちを受け入れるが、兄は弟と思っていた子が敵対する民族であることへの苦悩と拒絶。最後に国境の壁を越えて家族が交流する姿に未来を見ました。（のりこ）

おとなになって今まで信じていたことが壊れることはさまざまな葛藤を生む。その折り合いをつけるのは個人の力では難しいのかもしれない。映画を観ていて、なぜかAIDで生まれた人のことを思い出した。アイデンティティーって何だろう、個人が形作られるベースって何だろう、どうやってアイデンティティーを再生できるのか、そんなことを考えさせられる映画だった。（さとこ）

とても怖いと感じたのは、イスラエル国民ではなくパレスチナ人だと解った瞬間、「すでに内務省に報告しておきました」というセリフだった。本人の意向や家族の同意など関係なく。そしてコミュニティからも排除される。プライバシーとか個人情報とか無いらしい。国家による管理とはそういうことかと思った。一方で一番ほっとしたのは、パレスチナ人の母親の態度。

あなた（育てた子）ももう一人の子（産んだ子）もどちらも私の子よ。

映画では描かれなかったが、将来2人ともどんなに過酷な生活環境ではあってもパレスチナで暮らすことを選択するのかなと予想した。（れいこ）

9月18日

語り手：長沖 暁子さん

「卵子提供－最近の話題から考える」



『卵子提供～美談の裏側』（原題「Eggsploitation」／2013年／アメリカ）を見終わっただけ、DVDの制作年を確認せずにはいられなかった。アメリカ（USA）では巨大産業となった不妊治療。精子や卵子の提供がビジネスとして成り立っており、そこで行なわれる卵子売買の実態は、何十年も過去の話ではなく、少なくともこの10年前後に（しかも医療先進国で）起きていること。かつて生殖技術・体外受精を経験してしまったことがあるわたしにとって、二重にショックだった。卵子提供する女性たちが自らの行為を、善意や社会貢献と思わされる構造も、わたしには鼻白む。

採卵（卵子摘出）は、たとえ1～2個であっても女性のからだに負担を強いる。それが一度に30個～40個（60個というケースもあった）なんて、尋常じゃないよ!!! 原題『eggsploitation』は「eggs」（卵子）と「exploitation」（収奪）を重ねた造語だそうだ。彼女たちの経験は、卵子「提供」というより、まさに「収奪」というほうが的確だ。（m.m.）

卵子提供、いや卵子売買によって提供者にこんな健康被害が出ているなんて。毎月1個の卵子排出でも月経痛を引き起こすのだから、それが10個も20個も一度に排出させようとしたら、無理が出る。

それでも多くの人には子どもを持ちたいのだろうか？子どものいない人生は満たされないのだろうか？逆にその部分を知りたくなりました。

（礼子）

生殖技術が卵子提供者と第三者に関わる技術がこんなに複雑に広がることに理解が追いつかず、説明を聞くだけになってしまいそうだが。女たちの子どもが欲しいという思い。遺伝子（家の継承）を遺すこと。なぜ子どもができないのかという自身への不安などなどがある。一方で、不妊技術が前進することで子どもを得ることができた人々もいるし、AIDの子どもたちが抱える問題もある。アイデンティティーの崩壊、親への不信、遺伝情

報が伝わらないなど、問題が山積していることが分かった。国や行政から不妊治療費の補助費が限定的ではあるが実行されている。少子化対策の一環だろうが、ますます子どもができない女の辛さが増すのではないかと思った。（のりこ）

人を踏みつけて得る幸せなんてない。これが共有できないほど「子どもを持たなければならない」という有言無言の圧力は強い。少子化対策と称して、子どもを産めという圧力は強くなっているような気がする。この圧力をなんとかしない限り不幸の連鎖は止まらない、と改めて思う。

（さとこ）

☆女の空間NPO 総会&懇親会☆

11月26日(日)

総会 13:00～

懇親会 14:00～

会員の方には11月初めにお知らせをお送りします。会員外の方も含め、ぜひご参加ください。

☆おしゃべり会の予定☆

女たちに遺す私の財産＝女の知恵や思いを伝えるおしゃべり会。ゲストのお話をきっかけにいろいろなことを話合います。会員でない方の参加も大歓迎！

予約は必要ありませんが、初めていらっしゃる方は、office@space-for-women.orgまでメールでご連絡ください。

場所：女の空間NPO

参加費：200円

10月9日(月) 13:30～16:00

「成年後見制度から考える

～私たちが欲しい支援PartIII」

担当：長沖さん、丸山さん

PartIIで出てきた「私が欲しい支援」をどんな形で実現できるか、何ができるか、何が必要かを話合います。PartIIで出てきた私たちが欲しいものは大きくまとめると「情報」「他の人の手」そして「自由・人との交流」でした。

今まで参加していない方も大歓迎です。個人でできること、女の空間でできることを考えましょう。

1月21日(日) 13:30～16:00

「少し息継ぎ、でも楽ではないです、シェアハウス」

語り手 奥山たえこさん

2017年5月から千葉県柏市でシェアハウスをはじめました。それから半年。想定通り、想定外いろいろな事が起きています。

その途中経過をお話しして、皆様のお知恵もお借りしたいと思います。

12月23日(土・休) 13:30～17:00

「今年一年を振り返り、来年に望む、望年会」

持ち込み大歓迎。新しい年のために勇気と英気を手に入れましょう。

女の空間NPOの趣旨に

賛同いただける方は、ご入会ください。

入会金 6,000円 年会費 6,000円

郵便振替口座 00170-0-561307

口座名 女の空間NPO



【編集後記】

8月にふくらはぎの肉離れになり、自力で治そうとしたら、治りかけにうっかりひどくして、結局クリニックに通っている。人込みの中をよちよちと歩きつつ気づいたことが多々あった。

「弱者の方が歩ける人に道を譲っている」「歩きたばこの煙から逃れられない」「荷物を持ってくれた見知らぬ人への不安と感謝」「歩けるということは能力のひとつだ」「認知症だった母は、歩けなくなることの恐怖で歩き回っていたのかも」「不自由なく歩ける人のなんと多いことよ。でもその中に、杖を持っている人、足を引きずっている人も同時に存在している」など。

とりあえず肉体に合わせて、落ち着きのない性格も、こちらは自力で治すしかないか。(楓)